

社会人の法曹志望者の増加、社会人学生への支援について

論点(案)

1. 多様なバックグラウンドを有する社会人が法曹を志すためには、どのような広報や情報発信が必要か。法曹の魅力そのものを社会に発信することはもとより、仕事をしながら、あるいは、仕事を辞めて法科大学院に通うことのハードルの高さ等を踏まえて、社会的にどのような共通理解や支援があるとよいか。

○法曹の魅力、法曹としての領域拡大の状況などの積極的な発信に加え、「法曹になりたい」「法科大学院に通って学びたい」と思われるようになるために、どのようなことができるか。

○法科大学院教育やその魅力、各種制度に関する情報提供により、入学後や修了後にかかる予見可能性を高めることが重要ではないか。

- ・法科大学院授業の視聴や修了生の活躍の紹介等
- ・入試、奨学金制度、長期履修制度、入学前の科目等履修等の活用等

2. 学修時間の確保が難しい(有職)社会人学生に対し、法科大学院教育において、どのような配慮や工夫が有効か。

○(有職)社会人学生が学修計画を立てる際に、個々人の事情を踏まえ、選択肢を広げるような工夫はあるか。

- ・長期履修制度の柔軟な活用
- ・入学前の科目等履修や履修証明プログラムの提供

○ICTなどを活用した効率的かつ柔軟な授業の実施が望まれるのではないか。

- ・科目の特性に応じた対面授業とオンデマンド講義の併用等

○成績評価の在り方として、科目の特性に応じてより有効な方法として、どのようなことが考えられるか。

○学修ペースを保ち、切磋琢磨できる学修環境を構築するために、工夫できることはあるか。

3. そのほかに、(有職)社会人学生の事情を勘案した学修支援として、どのようなことが考えられるか。

○入学前から修了後にわたって、各段階でどのような支援が求められるか。

○とりわけ、有職社会人学生の時間的ハンディキャップを踏まえた支援として、何が考えられるか。